

平成30年度 第1回八雲町民自治推進委員会 会議録（要旨）

○日 時 平成30年10月17日（火）18：30～20：40

○場 所 八雲町役場 議員控室

○出席者 東間和浩 会長、福田浩子 委員、桂川裕樹 委員、
神戸園子 委員、吉村香代子 委員、赤井義大 委員
岩村町長、竹内企画振興課長、作田協働推進係長、浮須

1 開 会 進行～事務局

2 委嘱状交付 町長より各委員へ交付

3 町長挨拶 町長

4 委員・職員自己紹介

5 八雲町民自治推進委員会について～事務局説明（資料1のとおり） 質疑なし

6 会長・副会長の互選 会長～東間委員、副会長～福田委員

以降、東間委員進行

7 平成29年度八雲町自治基本条例運用状況について

（1）運用状況に関する概況の説明～事務局説明

（2）町民委員会としての意見について

（委員）

意見交換会（新幹線関係）の参加者が3名では、意見交換会として成り立たないのではないかと。様々な方法で周知はしたのだろうが、少ないのではないかと。

（町長）

懇談会のテーマへの興味・関心の問題もある。12年後のことであるため、身近ではないのではないかと。しかし、今年、新幹線乗車体験ツアーを開催したおかげで、新幹線に興味を持ち、来年以降の参加者に影響してくるのではないかと感じている。

（事務局）

今年は10月9日に開催し、昼の部10人、夜の部5人の参加者数となり、関係団体へも声掛けしたことから、昨年より参加者数が増えている。

(委 員)

周知方法として声掛けは大切である。

(町 長)

福祉関係、子育て関係など興味のある分野には集まってくるように感じる。

(委 員)

観光協会など関係団体への声掛けは重要ではないか。

(町 長)

関係団体は個別に話し合いの場を設けている。

(委 員)

町は何を一般町民から聞き出そうとしているのか。

(町 長)

新幹線新駅周辺整備の計画（周辺施設や駐車場など）についての意見をいただきたい。

(委 員)

町民の意見を聞く場は意見交換会以外にも組織としてあると思うが。

(町 長)

計画策定検討会議はまた別で、意見交換会はあくまで一般町民の意見を聞くものである。

(委 員)

新幹線ツアーは抽選になるほどすごく人気で、行けなかった方もたくさんいると聞いているが、参加者からの意見はもらっているのか、

(町 長)

意見は聞いており、参加者へ懇談会の案内を行っている。

(委 員)

単発で開催するよりも、関連性をもって開催することで参加者の確保につながるのではないかと。

(町 長)

ツアー開催後は、駅周辺整備について具体的な意見が出てくるようになっている。

(委 員)

地域によっては身近な問題には感じられないかもしれない。

(委 員)

町民は具体的な内容が見えてくれば、もっと意見が出てくるだろうし、今回のようなツアー後に開催することで、意見交換会として意味を成すのではないか。

(町 長)

もっと駅周辺に目に見える形でいろいろなものができてきてから意見が出てくるだろう。

(委 員)

できてきてから意見を出しても間に合うのか。

(町 長)

これからでも間に合う。新駅の位置は国で、駅までの道路は道で整備するため、我々では変えられないが、それ以外の部分についてはこれから意見をいただいても十分に間に合う。

(委 員)

駅舎のデザインもこれからなのか。

(町 長)

これから決めていく。駅舎を作るのが開業5年前の予定である。それまでに意見を反映させていく。

(委 員)

私たちの意見はどこに反映されるのか。私たちが考えなければいけない部分はどこなのか。私たちが意見を言えばどうにかなるのか。

(町 長)

皆さんからいただいた意見をもとに、国へ要望を出し、国が判断する。

(委 員)

意見はできるだけ出した方がいいということか。

(町 長)

ぜひ意見を言っていただければと思う。

(委員)

国が先導する事業であるが、地域の事業は地域の意見も聞きなさいよと言うが、プレッシャーをかけ、自治体が意見を言えば、自治体でやりなさいというスタンスである。

町民として、わがままは言えないが言いたいことは言った方が良いと感じる。

(町長)

いただいた意見をもとに、議会にかけて反映できるものは町行政へ反映さえていく。

(委員)

毎回、この報告を聞いているが、ポイントが上がっていることは大した成果ではなく、事前周知するのは当然のことである。問題は現実にとどの程度情報が発信され、共有されたかが大切ではないか。重要なのはパブリックコメントを行ってそこで出た意見が結果に反映され、何かが改善されるなど、結果が変わらなければ意味がないと思う。

(町長)

パブリックコメントに対して、毎回意見が出なくても、それは町側が内容を吟味して出しているものなので問題のないことと考える。何か重要な案件がある時には自ずと意見が出て来るもので、大切な手法である。

(事務局)

いろいろな手法がある中で、それぞれの項目で数が上がってこないのも現実で、意見を寄せてくださいと言ってもなかなか集まらない状況にある。

(委員)

本当に意見がないのだろうか。

(町長)

委員さんなど町に直接意見を言う機会がある方もおり、町内会単位で意見交換の場も設けている中で、それ以外の方からも意見をいただけるようパブリックコメントがある。

(委員)

いろいろな意見を聞くという部分でのパブリックコメントは必要なことで、良いことだが、ごみに関する問題について意見がゼロということはないと思う。全体の基本計画策定について意見を求める手法ではなかなか意見が集まりづらいのではないか。ごみの料金など一部に絞って意見をもらうような方法の方が意見が出るのではないか。

(町 長)

これは基本計画であり、ごみの料金等についての記載はなく、ごみ処理の方針についての計画なので、意見は出ないのではないかと。値段や分別方法に関するものだと意見が出てくると思う。

(委 員)

それでも、このパブリックコメントは出さなくてはいけないのか。

(町 長)

自治基本条例で決まっているのでやる必要がある。

意見がないということが全て悪いわけではないと感じる。意見がある時の受け皿になると考えている。

(委 員)

意見があった時の枠の確保がたまたまパブリックコメントであったり、町HPのコメント欄であるということだろうか。

(事務局)

計画の素案を全て読み込んで意見を出すというのは大変だと思う。

(委 員)

計画の段階で町民が意見を言うことはなかなか難しいが、町としては自治基本条例がある以上何らかの形で意見を聞いているという取り組みをする必要があるから、パブリックコメントや意見交換会・アンケートなどを実施しているに過ぎない。しかし、そのパブリックコメントのために町職員が業務をしており、それに対して意見がゼロというのはすごく悲しい。

(町 長)

意見が出ないことは悲しいこととは思わない。計画などはプロがあらゆるルールや法律に乗っ取って作成しており、それに対して、意見を出すことはなかなか難しいことで、それに対して意見が出なかったことで、この計画で良いのだと納得できる。

(委 員)

パブリックコメントをやっているということは、町民から意見をもらうことができる環境を作っているということでしょうか。

(町 長)

農業の計画については農業関係者が意見を出すように、その内容に関係のある方や興味のある方が内容を見てくれており、その中で意見がないということはこの計画どおりで良いの

だと認識できる。

(委員)

他の町も同じなのか。

(町長)

自治基本条例がない自治体もある。八雲町は、議会と協議しながら内容を吟味して自治基本条例を作成した。内容について得意分野の方に意見を求めたいという意味合いもある。

(事務局)

計画を作る時の住民参加の方法のひとつとしてパブリックコメントがある。審議会・アンケート調査・意見交換会などの方法のひとつである。必ずしもパブリックコメントをやらなければいけないというものでもない。

(町長)

専門分野の方が見ているという思いがある。

(委員)

パブリックコメントが出ていたとして、意見が出ないということはその内容に同意しているということではないか。

(町長)

いずれにしても議会の承認を得る必要があり、それに加えて町民の意見を反映させるためにパブリックコメント等を実施している。

(委員)

あらゆる分野について八雲町は情報を公開していることは前進的で、それに対して意見が多く出ないということはしっかり取り組んでいるのだと感じる。

(町長)

独断と偏見で進められないように、議会の承認を得るだけでなく町民の意見をいただくなど二重・三重のチェックを経て決定している。

(委員)

パブリックコメントの総括としては、意見がゼロということはあるが、他の部分でも意見を求めているので、幅広く意見を聴取している方法のひとつであり、行政が町民の意見を聞き取りながら進めているということで、少ないからいけないということではない。

(委員)

SNSの活用はまだ進んでいないのか。町HPの存在を知らない町民が多くいるので、SNSから町HPにリンクするなどしてはどうか。

(事務局)

現状は町HPと広報で周知し、見に来てもらうというスタイルで周知しているが、見るより自然に情報が入ってくるという時代になっている中で、ずっとこのままでは良いとは思っていないが、今後、導入も検討はしていきたい。若い世代にいかにも周知していくかが今後の課題である。方法については議論の余地がある。消防と選挙・防災についてはツイッターで情報発信している。

(委員)

やはりSNSは相互通行なのでスピーディーに情報のやり取りができる。

(事務局)

他の周知方法も含め検討していく必要がある。

(委員)

議会はユーチューブで配信していると思うが、フェイスブックなどでもぜひ配信してほしい。

(委員)

情報発信はHPがあるだけで良いというものではないので、今の状況に満足するのではなく、それを期待するのが町民である。SNS等を利用できる環境にしてほしい。

8 平成30年度町民参加施策の実施予定について(報告)～事務局説明 質疑なし

9 町長との懇談

(委員)

新幹線の駅が八雲にできて、八雲町に足を留めてもらえるようなまちづくりをしていかなければならないと思うが、八雲駅にどの程度、停車するのかわからない部分がある。

(町長)

終点ではないため、それほど長い停車時間はない。

(委員)

情報は出ているのかもしれないが、わからない部分が多い。

(町 長)

新幹線のツアーも参加者が多かったので、来年も町が予算をとって、参加してもらうことで意見をもらうきっかけとしたい。

(委 員)

プライベートだと新幹線より時間も早く値段も安い飛行機を使うケースが多い。新幹線が開通したら、東京まで行くか札幌までの移動に利用すると思う。その中で新幹線ツアーを企画することは良いことである。

(町 長)

八雲町から札幌まで新幹線で行くことを考えると1人だと利用する気にもなるが、家族で移動することを考えると車での移動の方が安い。そのようなことも含めて皆様から意見をいただきたい。

(委 員)

新幹線によって札幌に行きやすくなるという声もあるが、八雲に人が来るきっかけにもなるので、観光分野で受け皿となるようなものを作ったら良いのではないかと考えているが、観光客を誘致するような考えは町としてあるのか。

(町 長)

20年後人口が半分になることを見据えると、海外からのインバウンドが良いかなと考えている。

(委 員)

函館—札幌間、函館—ニセコ間は外国人の移動が多いので、新幹線の駅に何かあれば降りる人が増えるのではないかと考えている。

(町 長)

役場の職員も全員英語を話せるようにしてはどうかと提案したところである。

(委 員)

個人的には役場職員として外国人を採用してほしい。

(町 長)

八雲町の職員が英語を話せるとなれば、外国人が来やすい環境になる。

新幹線の駅に過度に期待をして整備しすぎるのも良くないが、建設後に町で何かできるよう準備をしていきたい。

(町 長)

国立病院の跡地に役場庁舎の移転を考えている。新築で60億円かかる見込みであるが、あまりお金をかけずに移転をしたいと考えている。そこで皆さんから意見を聞きたい。

(委 員)

場所的には合同庁舎の路線にあるため、熊石からはアクセスしやすい。

(町 長)

役場近郊の住民は困ると言っている方もいる。

(委 員)

新築するのか。

(町 長)

新築せず、養護学校の建物を使いたいと考えている。個人的な考えだが、使えるものを使って整備していきたい。合同庁舎の前の道路をメインの通りとして新幹線の駅につながるようにし、北海道の施設などもその通りに集約したいと考えている。災害時の対応を考慮した立地としても適切と考える。

(委 員)

アクセスも良くなり、主要施設が並ぶので案として良いと思う。

(委 員)

八雲町の地図から見ると端に位置していることが問題ではないか。
役場に行く高齢者が通いやすいというポイントをクリアできれば良いと考える。

(委 員)

熊石地域では支所があるので、窓口があれば用が足りるのではないか。

(町 長)

役場も公民館も移転するのはいかなものかという意見もある。公民館は町の中心にあり集まりやすいという意見がある。公民館も建て替える必要がある。

(町 長)

持続できる町にするため人を育てる仕組みを作っていきたい。例えば、研修牧場でも人を育てるために、牧場の利益を研修費に充てるなど農業振興に使っていく。

漁業も熊石の研究所でダルスの研究を行っていく。熊石漁協の端でダルスの生産をして、その利益で人材育成を図りたい。林業・商業についても同様に考えている。

マネジメントをできる人材を作っていきたい。

ふるさと納税はずっと残っていくと考えている。人材育成につながる事業についてもふるさと納税で寄付を募っていきたい。

熊石で水産試験の研究のため協力隊を募集したところ10人以上の応募があった。若い方からの応募もあった。ふるさと納税の記念品の生産など熊石の今後の可能性を感じた。

あらゆる分野で働く人材が不足している。農業・漁業も海外からの研修生を呼び込むこともあり得る。

(委員)

八雲は1次産業の町で、我が社もその関連会社であるが本当に人材不足である。その中で大きく改革をしようとしており、地域が盛り上がりもらう必要がある。採用があってもこれからという時に辞めてしまう。人材育成にも大きな労力が必要である。

(委員)

先ほどの町長の話聞いてとても夢があるなど感じた。多目的なものに対して人は集まらないが、専門性を持たせた方が人が集まる気がする。

(町長)

関東圏から協力隊への募集があったことに驚いた。

(委員)

興味のある人がどこにいるかわからない。

(町長)

ふるさと納税の今後の可能性に期待する。

(委員)

それに加えて、産業の循環の仕組みができればふるさと納税のマンネリ化が防げるのでは。

(町長)

製品を作りながら熊石ブランドとして記念品を出し、その利益を生産や製造につなげることでまた、雇用も生まれる。

(委員)

来てもらった方には待遇を良くした方が良いのでは。

(委員)

その時の受け皿として、八雲の住宅の家賃が高いという問題は解決していかなければいけないのでは。

(町長)

町で宿泊所を建てるのかということも含め、不動産経営をしている方のことも考えると、助成が良いのではないかと考えている。

(委員)

助成と古民家を使ったシェアハウスの2つから選択できるようにしてはどうか。

(町長)

1～2年の期間を設定して八雲町に来てもらうきっかけとして助成するのが良いのではないか。

(委員)

家具類が付いていて短期でも借りられるのであれば、それでいいと思う。

(町長)

研修牧場には宿泊所を作る。

八雲町も建設業に初めてベトナム人が入ってきている。

(委員)

外国人を雇うのが企業の宿命になってきている。

都会の方が最低賃金が高いため、人が流れて行っている。

(町長)

外国人が入ってくると八雲町の経済が活性化する。八雲町に人を呼び込む方法を考える必要がある。新幹線の駅ができるということも武器になる。財政的に八雲町が良かったら、八雲町から札幌へ通学できるという可能性もある。

(委員)

子どもの進学先の選択肢も広がる。

(町長)

通学手当てがあれば可能性も広がる。役場や公民館の移転についても意見をほしい。

(委 員)

移転したからと言って不便なのか。少しの移転なので支障はそれほどないのではないか。行政機関がいろいろな場所にあるのは良くないので、メインのところに集約していた方が良い。

(町 長)

私も色々と情報を発信していきますので、皆さんからも意見をいただければと思う。

(委 員)

どんな災害が起こるかわからないので、地下水を掘っていただいて、そこに行けば水が手に入るというみんなが集まれる場所を作ってほしい。

病気にかからない村があると知り、八雲町でも子どもからお年寄りまでが数分でできる町の体操があればと思う。

防災無線の活用をしてはどうか。徘徊している老人の搜索や変質者や泥棒への防犯などに活用した方が良いのではないか。

(町 長)

八雲町の水道は落差があるため、めったなことでは止まることはない。電気で汲み上げているアパートなどの水以外は止まらない。避難所の水も止まることはない。

防災無線の活用については八雲地域で聞こえづらい場所があるのでその問題をクリアできたら体操やその他の活用について考えていきたい。

(委 員)

防災無線も窓を閉めると聞こえないところもあるが、追々は個別に聞こえるようにやっていく必要がある。せたな町も含め日本海側は個別の防災無線がある。

(町 長)

熊石のように個別受信機が付くよう考えていきたい。

10 そ の 他

11 閉 会